



**栄光園だより**

第113号

2018年10月31日発行  
発行  
社会福祉法人 栄光園  
別府市南荘園町3組  
〒874-0904 電話 (23) 2827  
振込口座 01930-2-20748  
編集 広報誌編集委員会  
印刷 大野印刷株式会社  
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

# 栄光園設立の頃

評議員 平野 紀美代



先日、栄光園は創立何年になるんでしょうか？と何気なく江口理事長にお尋ねしたところ、66年になりますと即答。昭和20年の敗戦から7年後の昭和27年、荘園の広大な土地に、県内初めての乳児院が立てられました。栄光園です。当時の別府市荘園地区とどう云う所だったのでしょうか。住宅地であり、六角温泉、七つ石温泉は当時からありました。一番大きな公の建物はやはり九州大学温泉治療学研究所、通称九大温研と呼ばれていた病院です。(現在の九州大学病院別府病院)

街からの交通手段は北浜から亀の井バスが走り、温研玄関前が終点で、これは現在も変わっていません。最終バスは夕方6時頃でした。勤務しておられた医師と云えども、当時はマイカーなどお一人として持っておられず、皆さん診察に見

える患者さんと一緒に満員バスで揺られながらの出勤でした。そのバスの中を女性の車掌さんが切符を切りながら廻るという状態でした。夕方最終バスに乗り遅れると野口の墓場を通り、歩いて帰らざるを得ません。道路は舗装されておらず、台風が過ぎ去った後などは、岩がむき出しになったポコポコ道を車体を大きく揺らせながら、バスは走っていました。今、市内をガラガラで走っている亀の井バスを見ますと、なんだか気の毒になってしまいます。みんなマイカーになってしまったのですね。

当時、私は九大温研の臨床検査室に勤務しており、医師が博士号取得のための動物実験のお手伝いもしていました。兎に餌をあげるのも私の仕事です。毎朝、大きな木箱いっぱい「おから」が届くのですが、そのおからの大豆の香り

がたまらなく美味しそうで、思わず自分の口に入りたい！兎が羨ましかったことなど今でも忘れません。それ程食べ物になかった時代です。お米は配給制で一人一日2合1勺、観海寺入口にあったお米屋さんに朝早くから並び、もう少しで自分の番だと思っていたら「今日の配給はこれまで」と云われトボトボと歩いて帰ったこと。とにかく毎日「お腹がすいた!!」の連続、満腹感を味わいたいと願う日々でした。大根葉は最高の御馳走でした。これは私だけが経験した日々ではなく、日本中の多くの方々が味わった戦後の一番苦しい時代でした。

その様な戦後の苦しい日々の中で、野町良夫牧師と小郷虎市夫妻が幼い子どもたちの生命を守るために栄光園設立を思い立たれたのです。野町牧師はお子様五人をお育ての中、教会の少ない謝儀の中、野町夫人は黙々と牧師をお支えになりました。小郷兄とお二人で、血の汗を流しながら歩かれ、ただ神が成して下さるとの信仰に立ち、身を粉にして働きになりました。宣教師のキャザリン・ステイブン先生をはじめ多くの協力者を与えられ栄光園乳児院は竣工の日を迎えたのです。

現在、子どもたちを愛し、見守り、その成長を祈り願いながらお働き下さっている職員の皆様は深く感謝いたします。



## 児童養護施設

### キャザリンホーム

保育士 神野 怜央

#### 大舞台での経験を

世界的ジャズ奏者である渡辺貞夫さんと別府市の3つの児童養護施設の子どものためのコンサート「シェアザワールド」。2014年を皮切りに2年おきに開催され今年で3回目となりました。私は前回の経験を活かし、今回副責任者という立場で参加させていただきました。

当施設では5月から8月の本番までの約3ヶ月間練習に励みました。小学生から高校生までの幅広い年齢層の参加ということもあり、学業や部活動の影響で練習に参加できない、一向に歌詞や振りが覚えられないなど、多くの困難に直面しました。そんな中、経験者である児童が初参加の児童にわかりやすく教えてあげる助け合いの姿があったり、例え上手にできなくてもとにかくこの機会を「楽しむ」ことを最優先に取り組みました。練習を重ねることに参加者全員が団結していき、本番では練習以上の成果を発揮することができ、素晴らしいコンサートとなりました。

練習期間で学んだ団結することの大切さ、本番の大舞台でそれらを発揮することの経験やステージからの景色を参加者全員が心に刻み、今後の人生に活かしてくれらると考えています。